

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-201984

(43)Date of publication of application : 09.08.1996

(51)Int.Cl.

G03C 3/00

G03C 3/00

(21)Application number : 07-012563

(71)Applicant : FUJI PHOTO FILM CO LTD

(22)Date of filing : 30.01.1995

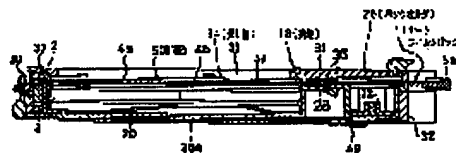
(72)Inventor : OKUTSU TARO  
KITAMURA YASUHIKO  
HARA YOSHIO

## (54) SHEET FILM PACK

## (57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the deviation of an image frame by regulating the deviation of a sheet film unit in its longitudinal direction.

CONSTITUTION: A pair of projections 18 is formed on the surface 5f of a slide 5. By loading the sheet film pack 1 in a pack holder 25 and pulling the slide 5 so as to prepare for photographing, the aperture of a pack main body is opened and a sheet film unit 4a being an uppermost layer passes through the aperture of a pack main body and is received by the receiving surface 34 of a holder main body 25a. Then, the slide 5 is restored in a direction where the aperture of the pack main body is closed and inserted between the sheet film unit 4a being the uppermost layer and the next sheet film unit 4b. Thus, the sheet film unit 4a is interposed between the receiving surface 34 of the holder main body 25a and the surface 5f of the slide 5, so that the positioning of the sheet film unit 4a in a thickness direction is performed. The positioning of the sheet film unit 4a in the longitudinal direction is performed by pressing the edge of the sheet film unit 4a being the uppermost layer by the projections 18.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-201984

(43) 公開日 平成8年(1996)8月9日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 3 C 3/00

識別記号

5 1 0 D

庁内整理番号

5 1 5

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平7-12563

(22) 出願日 平成7年(1995)1月30日

(71) 出願人 000005201

富士写真フイルム株式会社  
神奈川県南足柄市中沼210番地

(72) 発明者 奥津 太郎

神奈川県南足柄市中沼210番地 富士写真  
フイルム株式会社内

(72) 発明者 北村 靖彦

神奈川県南足柄市中沼210番地 富士写真  
フイルム株式会社内

(72) 発明者 原 芳夫

神奈川県南足柄市中沼210番地 富士写真  
フイルム株式会社内

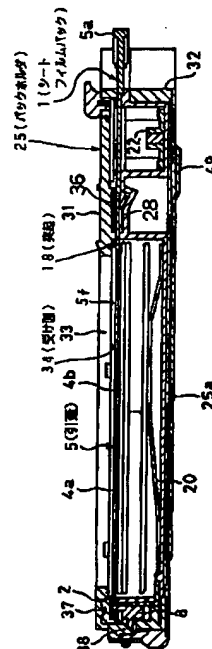
(74) 代理人 弁理士 小林 和憲

(54) 【発明の名称】 シートフイルムバック

(57) 【要約】

【目的】 シートフイルムユニットの長手方向のずれを規制して画枠ずれを防止する。

【構成】 一対の突起18を引蓋5の表面5fに形成した。シートフイルムバック1をバックホルダ25に装填して撮影準備のために引蓋5を引くと、バック本体の開口が開放され、最上層のシートフイルムユニット4aがバック本体の開口を通過してホルダ本体25aの受け面34に受け止められる。引蓋5をバック本体の開口を閉じる方向に戻して最上層のシートフイルムユニット4aと次のシートフイルムユニット4bとの間に挿入する。これにより、シートフイルムユニット4aは、ホルダ本体25aの受け面34と引蓋5の表面5fとの間に挟持され、厚み方向の位置決めがなされるとともに、突起18により、最上層のシートフイルムユニット4aの縁端が押圧され、長手方向の位置決めが行われる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホルダ本体の前面壁に形成され、シートフィルムユニットより小さいサイズの露光開口と、前記前面壁の内側に設けられ、シートフィルムユニットの縁部を受け止めてシートフィルムユニットを露光開口に対面させる受け面とを備えたバックホルダに装填して使用されるとともに、シートフィルムユニットを複数枚積層して収納するバック本体と、このバック本体の前面壁に形成され、最上層のシートフィルムユニットを通過させる開口と、バック本体にスライド自在に設けられ、前記開口を開閉する引蓋とを備えたシートフィルムバックにおいて、

前記引蓋の開き方向への移動により開放されたバック本体の開口を通過してバックホルダの受け面に受け止められたシートフィルムユニットの縁端を引蓋の閉じ方向への移動により押圧し、シートフィルムユニットの長手方向の位置を規制する突起を引蓋の表面に形成したことを特徴とするシートフィルムバック。

【請求項2】 前記突起は、引蓋の表面からの高さをシートフィルムユニットの厚みの1/2以上としたことを特徴とする請求項1記載のシートフィルムバック。

【請求項3】 前記突起は、引蓋の表面からの高さを0.9～1.1mmとしたことを特徴とする請求項1記載のシートフィルムバック。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、シートフィルムを複数枚積層して収納し、これらのシートフィルムに順次に撮影を行ってゆくシートフィルムバックの改良に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 シートフィルムバックは、バックホルダに装填して使用され、引蓋の押し引き操作を行うことにより大型カメラで連続撮影を可能にするものである。シートフィルムバックのバック本体には、4×5インチのシートフィルムを1枚ずつシースに収納したシートフィルムユニットが複数枚積層して収納されている。シースは、ベース面側を支持する底部と、シートフィルムの2長辺と1短辺の各縁を差し込む溝付きの縁部とからなる。また、バック本体の背面内壁には、積層したシートフィルムユニットをバック本体の前面壁側に付勢する圧板パネが設けられている。

【0003】 フィルムバックをバックホルダに装填してバックホルダの蓋を閉じた後、引蓋を所定位置まで引くと、最上層のシートフィルムユニットがバック本体の開口からホルダ本体の前面内壁に設けられた受け面に受け止められる。この前面内壁の中央部には、シートフィルムユニットより小さいサイズの露光開口が形成され、受け面に受け止められたシートフィルムユニットは露光開口に対面される。また、この前面内壁には、露光済みの

シートフィルムユニットをホルダ本体の背面内壁側へ付勢する複数の板パネが取り付けられている。

【0004】 引蓋を元の位置に戻すと、引蓋は最上層のシートフィルムユニットと次のシートフィルムユニットとの間に挿入され、最上層のシートフィルムユニットは、ホルダ本体の受け面と引蓋との間に挟持されるようにして露光位置に位置決めされる。この後、カメラのシャッターを開閉させて撮影を行ってから引蓋を引くと、ホルダ本体の内側に設けられた中枠がバック本体を保持した状態でスライドして引き出される。このとき、露光済みのシートフィルムユニットは、ホルダ本体の内壁に形成された突条部に係止して露光位置に停止したままであるから、前記板パネによってホルダ本体の背面内壁側に向かって押しつけられる。

【0005】 続いて引蓋を元の位置に押し戻すと、中枠とともにバック本体がホルダ本体の元の位置に戻る。このとき、バック本体に形成された間仕切り板の下端とバック本体の背面内壁面との開口から露光済みのシートフィルムユニットが積層したシートフィルムユニットの最下層に収納される。以上の操作を繰り返すことにより、バック本体に収納されている全部のシートフィルムユニットを連続的に撮影することができる。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】 上述したように、露光位置に移動した最上層のシートフィルムユニットは、ホルダ本体の受け面と引蓋との間に挟まれるため、厚み方向の位置は一定している。しかしながら、シートフィルムユニットの周端とホルダ本体の内壁側面とは隙間があるため、ホルダ本体の露光開口に対するシートフィルムユニットの位置が一定せず、シートフィルムに対する露光領域、すなわち画枠がずれるという問題があった。特に、上述したように、シートフィルムユニットは2長辺と1短辺の各縁がシースの溝付き縁部により保持されているので、シートフィルムユニットの短辺方向のずれはシースの縁部により殆ど影響がないが、シートフィルムユニットの長辺方向のずれは、露光開口の縁がそのまま画枠の片側の縁となるから、画枠のずれに大きな影響がある。

【0007】 本発明は上記事情を考慮してなされたもので、シートフィルムユニットの長手方向のずれを規制して画枠ずれを防止したシートフィルムバックを提供することを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明のシートフィルムバックは、ホルダ本体の前面壁に形成され、シートフィルムユニットより小さいサイズの露光開口と、前記前面壁の内側に設けられ、シートフィルムユニットの縁部を受け止めてシートフィルムユニットを露光開口に対面させる受け面とを備えたバックホルダに装填して使用されるとともに、シートフィル

ムユニットを複数枚積層して収納するバック本体と、このバック本体の前面壁に形成され、最上層のシートフィルムユニットを通過させる開口と、バック本体にスライド自在に設けられ、前記開口を開閉する引蓋とを備えたシートフィルムバックにおいて、前記引蓋の開き方向への移動により開放されたバック本体の開口を通過してバックホルダの受け面に受け止められたシートフィルムユニットの縁端を引蓋の閉じ方向への移動により押圧し、シートフィルムユニットの長手方向の位置を規制する突起を引蓋の表面に形成したものである。

【0009】

【作用】撮影準備のために引蓋を引くと、バック本体の開口が開放され、最上層のシートフィルムユニットがバック本体の開口を通過してバックホルダの受け面に当接される露光位置に移動される。そして、引蓋を戻すことにより、最上層のシートフィルムユニットと次のシートフィルムユニットとの間に引蓋が挿入される。これにより、露光位置にある最上層のシートフィルムユニットは、ホルダ本体の受け面と引蓋の表面との間に挟持され、厚み方向の位置決めがなされるとともに、引蓋の表面に形成した突起により、最上層のシートフィルムユニットの縁端が押圧され、長手方向の位置決めが行われる。したがって、ずれのない一定した画枠で撮影が行われる。

【0010】また、前記突起は、引蓋の表面からの高さをシートフィルムユニットの厚みの $1/2$ 以上としたので、シートフィルムユニットの縁端が突起に乗り上げるというトラブルが防止され、確実にシートフィルムユニットの長手方向の位置決めが行われる。

【0011】また、前記突起は、引蓋の表面からの高さを $0.9 \sim 1.1$  mmとしたので、突起がバックホルダ側の遮光テレンプを通過する際に遮光テレンプとの摩擦抵抗が大きくなり過ぎて動作性が低下することなく、シートフィルムユニットの長手方向の位置決めが確実に行われる。

【0012】

【実施例】図2において、本発明を適用したシートフィルムバック1は、先端部に着脱自在なキャップ部材2を有する箱型のバック本体3と、その中に積層して収納された複数枚のシートフィルムユニット4と、バック本体3の前面側に形成された開口3aを開閉する把手5a付きの引蓋5とを備えている。引蓋5はシートフィルムユニット4よりもサイズが大きく、把手5aを持って押し引きすることにより、バック本体3の両縁部に形成した一対のガイドレール6、7の溝6a、7aに沿ってスライドさせることができる。

【0013】キャップ部材2の内部には、上方に付勢された爪部材8（図6参照）が設けられており、これに形成された一対の爪8aが引蓋5の先端側に形成された係止穴5b、5cと係合して引蓋5をキャップ部材2に係

止する。引蓋5の下面には、把手5a側に段差部5dが形成され、これがバック本体3の端部と係合して引蓋5のキャップ部材2側への移動を阻止するから、引蓋5の先端部が爪部材8によってキャップ部材2に連結されている状態においてはキャップ部材2がバック本体3から外れることがない。

【0014】シートフィルムユニット4は、図3に示すように、 $4 \times 5$  インチサイズのシートフィルム15と、これを乳剤面15aを露呈するように収納するプラスチック製のシース16とから構成されている。このシース16は、シートフィルム15のベース面側を支持する底部16aと、シートフィルム15の間仕切り板3b（図6参照）側の1辺を除く3辺の縁を差し込む溝付きの縁部16bとからなる。

【0015】図1及び図4において、引蓋5の表面5fには、シートフィルムユニット4の縁端、すなわちシース16の縁端を押圧して露光位置にあるシートフィルムユニット4の長手方向の位置決めを行う一対の突起18、19が形成されている。この突起18、19の幅D<sub>1</sub>は2.0 mm、これらの中心同志の間隔D<sub>2</sub>は9.0 mm、段差部5dからシース16の縁端を押圧する端面18a、19aまでの距離D<sub>3</sub>は55.5 mmである。また、突起5eは、撮影準備のために引き出した引蓋5を戻す際に、バックホルダ25の所定部材を押圧して撮影準備が完了した信号を表示する。

【0016】図5において、突起18、19は、バックホルダ側の遮光テレンプ36（図7参照）を通過する際の摩擦抵抗を減少させるために、端面18a、19aと上面18b、19bとのエッジ部18c、19cには0.2 mmの面取りを施し、また、把手5a側は斜面18d、19dとしている。なお、例えば上面18b、19bの長さD<sub>4</sub>は1.0 mm、斜面18d、19dの引蓋長手方向の長さD<sub>5</sub>は2.0 mmである。

【0017】突起18、19の高さhがシース16の厚みD<sub>6</sub>の $1/2$ 未満の場合には、シース16が突起18、19に乗り上げるため、突起18、19によるシートフィルムユニット4の位置決めが不良になる。したがって、突起18、19の高さhは、シース16の厚みD<sub>6</sub>、例えば1.4 mmの $1/2$ 以上、すなわち0.7 mm（ $= D_6 / 2$ ）以上を確保する必要がある。また、高さhを1.2 mm以上にした場合には、突起18、19がバックホルダ側の遮光テレンプ36を通過する際の摩擦抵抗が増し、動作性が悪化する。そこで、突起18、19の高さhを変化させて「位置決め性」と「動作性」について実験を行い、評価した結果を下記の表1に示す。なお、この表1中の符号×、▲、●、○、◎は、この順序で評価が高くなることを示している。この表1から、位置決め性及び動作性の両方がバランスよく満足される $0.9 \sim 1.1$  mmが好ましい範囲であることが分かる。なお、エッジ部18c、19cは0.2 mmの面取

りが施されているため、実際にシース16の端を押圧する端面18a、19aの高さは、0.7~0.9mmとなる。

【0018】

【表1】

突起の高さ	位置決め性	動作性
0.7mm	×	◎
0.8mm	▲	◎
0.9mm	●	◎
1.0mm	○	○
1.1mm	◎	●
1.2mm	◎	▲
1.3mm	◎	×

10

20

\*る。引蓋5を形成するために使用する材料の好ましい物性は、下記の表2に示すとおりである。なお、本実施例では、良流動良離型グレードのポリカーボネート樹脂を選定した。

【0020】

【表2】

【0019】突起18、19は引蓋5と一体成形され\*

項 目		測定法	単位	物性値
引張強度	降伏	ASTM D-638	kg/cm <sup>2</sup>	435~800
	破断			490~910
	破断伸び		%	75~140
曲げ強度		ASTM D-790	kg/cm <sup>2</sup>	630~1170
アイソット 衝撃強度	ノッチ付 1/2 "	ASTM D-256	kg・cm/cm	7~13
	ノッチ付 1/8 "			63~117
MFI		JIS K6716	g/10min	10~18
カーボン含有率		—	%	0.2~5.0

【0021】また、引蓋5の裏面には、図1及び図4に示すように、一対の突条のリブ5g、5hが引蓋5の長手方向に形成されている。このリブ5g、5hは、引蓋5を溝6a、7aに沿ってスライドさせたときに、次のシートフィルムユニット4のシース16の縁部16bに摺接される。このリブ5g、5hにより、引蓋5の裏面とシートフィルム15の乳剤面15aとの隙間が広がるため、乳剤面15aに擦り傷が付くことが防止される。

【0022】また、引蓋5に形成された穴51は、全撮影操作終了時にカウンタ機構に連動したロック部材（図示省略）が上昇してこれに係合し、引蓋5をバック本体3にロックするものである。また、この穴51近くに形成された矩形状の穴51は、引蓋5を開口3aの遮蔽位置に戻したとき、バックホルダ25の蓋31の上端にスライド自在に設けられたノブ51のスライド防止爪51a（図2参照）が入り込み、ノブ51をスライド可能に

するものである。そして、ノブ51をスライドさせることにより、バックホルダ25に設けられたロック機構が解除されて蓋31が回動可能になる。また、図4に示す突起5kは、撮影準備が完了した後にバックホルダ25の所定部材に係合し、引蓋5とバック本体3とバックホルダ25のスライド枠32（図2参照）とが一体になってホルダ本体25aから引き出されるようにするものである。

【0023】図6において、バック本体3には例えば10枚のシートフィルムユニット4が積層して収納されており、これらはバック本体3の背面内壁に一端を係止した圧板バネ20によって前面側に押圧されている。これによりシートフィルムユニット4は引蓋5の裏面に圧着される。また、シートフィルムユニット4が収納されたフィルム収納室3cと、バック本体3の端に設けられたカウンタ室21との間には、引蓋5がスライドされるバック本体3の摺接面と引蓋5との間隙から外光が入り込むことを阻止する遮光テレンプ28が設けられている。

【0024】カウンタ室21の内部には、カウンタ表示用の円板22が収納されている。円板22の片面には、撮影枚数を示す数字、例えば「1」、「2」、・・・、「10」と、エンドマークである「E」とが刻印されており、これをバック本体3及びこれを収納するバックホルダ25のホルダ本体25aに設けられた開口を通して観察するようになっている。この円板22は、シートフィルムユニット4が1枚撮影される毎に、バックホルダ25側の機構によって駆動される。

【0025】上記シートフィルムバック1を装填して使用するバックホルダ25は、図2に示すように、ホルダ本体25aと、これに回動自在に取り付けられた蓋31と、ホルダ本体25a内にスライド自在に取り付けられたスライド枠32とからなる。蓋31には、シートフィルムユニット4よりも小サイズの露光開口33が設けられ、この開口縁の下部は、開口3aを通過したシートフィルムユニット4の縁部を受け止めてシートフィルムユニット4を露光位置に位置決めする受け面34となっている。

【0026】受け面34には、この長手方向に溝34aが形成されており、この溝34aには4個の板バネ35が一端を固着されて設けられている。この板バネ35は、シートフィルムバック1をバックホルダ25内に装填して蓋31を閉じた際にバック本体3を図中下側に押圧する。さらに、これらの板バネ35はバック本体3から排出されたシートフィルムユニット4を上から押さえつける作用も行う。また、蓋31の内壁面で露光開口33の短辺側近傍には、蓋31の内壁面と引蓋5の表面5fとの隙間から外光が入り込むことを阻止するテレンプ部材36が固着されている。

【0027】蓋31のヒンジ近傍には、シートフィルムバック1の装填時にキャップ部材2の溝部2aに係合し

てキャップ部材2をバックホルダ25内に係止する突条部37と、爪部材8の一对の突起8bを押下げて一对の爪8aを引蓋5の係合穴5b、5cから離脱させる突起部38とが形成されている（図7参照）。

【0028】スライド枠32の端に設けられた箱部39、40内には、ホルダ本体25aとの間でスライド枠32のスライド移動を制御するとともに、前記カウンタ表示板22を歩進する機構等が内蔵されている。なお、箱部39、40の上壁に形成された開口から突出された爪部41、42は、開口3aの全開時に係止穴5b、5cに係合され、引蓋5の引抜き範囲の規制等を行う。

【0029】スライド枠32の端面中央には、引蓋5の裏面に形成された溝に係合して引蓋5をロックする引蓋ロックダイヤル43が設けられている。また、この引蓋ロックダイヤル43の近傍には、円弧状突起44が設けられている。この背面には、バックホルダ25をカメラに装着した際に撮影者側から見える窓が設けられており、ここに撮影準備の完了時に例えば黄色の突起が表示される。

【0030】バックホルダ25の前面には、図7に示すように、バックホルダ25を大判カメラ45の露光枠45aに位置決めする凸条47、48が形成されている。また、符号49は、スライド枠32がスライドされる摺接面とホルダ本体25aの内壁面との隙間から外光が入り込むことを阻止する遮光テレンプである。なお、遮光テレンプ36近傍に設けられた受け面34のエッジ部34bは、突起18、19の通過路に対応する部分が突起18、19の通過を邪魔しないように切り欠いてある。

【0031】上記構成による作用について説明する。シートフィルムバック1をバックホルダ25に装填して蓋31を閉じると、図7に示すように、突条部37が溝部2aに係合してキャップ部材2がホルダ本体25aと蓋31との間に保持される。そして、突起38によって突起8bが押し下げられて爪部材8が下方に移動され、爪部材8の爪8aが引蓋5の係止穴5b、5cから外れるから引蓋5のロックは解除される。

【0032】バックホルダ25を大判カメラ45の露光枠45aに装着してから、引蓋5を引き出して図8に示した位置まで完全に移動させると、バック本体3の開口3aが完全に開放され、1枚目のシートフィルムユニット4aは圧板バネ20によって押し上げられる。そして、シートフィルムユニット4aは開口3aを通り抜けてバックホルダ25の受け面34に押し付けられる。このとき、箱部41に内蔵したラッチ機構によってバック本体3はホルダ本体25aに係止されており、バック本体3の引き出し操作は行うことができないようになっている。

【0033】そして、引蓋5を元の位置に押し戻すと、図9に示すように、引蓋5は1枚目のシートフィルムユニット4aと2枚目のシートフィルムユニット4bとの

間に挿入される。これにより、露光位置にあるシートフィルムユニット4aのシース16の縁端が突起18、19に押圧され、シートフィルムユニット4aの長手方向の位置決めが行われる。また、これと同時に、シートフィルムユニット4aは受け面34と引蓋5の表面5fとの間に挟まれ、厚み方向の位置決めも行われる。これにより、シートフィルムユニット4aと露光開口33との位置関係が一定となり、画枠が一定になる。なお、シートフィルムユニット4aの長手方向と直交する方向は、両側がシース16の縁部16bにより規制されているので、この方向にシートフィルムユニット4aが移動しても画枠の位置には殆ど影響しない。

【0034】このように引蓋5がシートフィルムユニット4a、4bの間に挿入されると、箱部41に内蔵したラッチ機構により、引蓋5がバック本体3に係止されるとともに、ホルダ本体25aとスライド枠32との係合が解除される。また、円弧状突起44の窓に撮影準備完了を示す表示が出される。この状態で大判カメラ45のシャッターを開閉することによって、1枚目のシートフィルムユニット4aが露光される。

【0035】こうして1回目の撮影操作を終えた後に、把手5aを把持して引くと、図10に示すように、キャップ部材2だけをバックホルダ25の奥に残してスライド枠32とバック本体3とがバックホルダ25から一体的に引き出される。このとき、撮影済みの1枚目のシートフィルムユニット4aは、受け面34のエッジ部34bに当接してそのままの位置に係止されるため、シートフィルムユニット4aは、間仕切り板3bの上部と受け面34との隙間を通してバック本体3から抜け出してゆく。

【0036】バック本体3から抜け出したシートフィルムユニット4aは、バネ35によってホルダ本体25aの底に押し込まれる。この位置で箱部39に内蔵された制御機構が作用してそれ以上はスライド枠32の引き出しができなくなる。なお、このとき、引蓋5がバック本体3の開口3aを遮蔽しているから、バック本体3内のシートフィルムユニット4に外光が及ぶことはない。

【0037】次に、バック本体3をスライド枠32とともにホルダ本体25a内に押し戻してゆくと、シートフィルムユニット4aの左端部がキャップ部材2の屈曲板55で規制されているため、シートフィルムユニット4aは間仕切り板3bの下端と背面内壁3dとの隙間である回収口56を通してバック本体3内に入り込み、圧板バネ20の上面に乗り上げて未露光のシートフィルムユニット4の最下層に挿入される。

【0038】このようにして完全にバック本体3をホルダ本体25a内に挿入すると、箱部39に内蔵されたカウンタ送り爪がカウンタ表示板22を1目盛り分だけ歩進させ、カウンタ表示窓に表示された撮影枚数を示す数字が「7」から「8」に変更される。そして、2枚目の

シートフィルムユニット4bが引蓋5の真下に位置している以外は図7に示した状態と同様の状態になる。以下、同様の操作を繰り返すことによって次々と撮影を行うことができる。

【0039】上述した手順の繰り返しにより10枚目のシートフィルムユニット4に撮影を行った後、バック本体3の引き出し及び押し込み操作を行うと、バック本体3内には撮影済みのシートフィルムユニット4が撮影順に上から積層され、開口3aは引蓋5で覆われた状態となっている。こうして1個のシートフィルムバック1について全撮影操作を終えると、カウンタ機構に連動したロック部材が引蓋5の係止穴5iに係合して引蓋5がスライドしないように引蓋5をバック本体3にロックする。また、同時に蓋31のロック解除機構が作動して蓋31のロックが解除されるから、ノブ51を操作して蓋31を開ける。

【0040】蓋31の回動とともに突起部38による突起8bの押圧が解除されるから、爪部材8が上昇し、爪8aが係止穴5b、5cに係合してキャップ部材2と引蓋5とが連結される。また、引蓋5の段差部5dがバック本体3の端部に当接しているから、キャップ部材2がバック本体3に係止される。そして、突条部37によるキャップ部材2の押さえが解除されるから使用済のシートフィルムバック1を取り出すことができる。

【0041】以上説明した実施例では、引蓋の表面に形成した突起の側方から見た形状を各辺が直線からなる台形状にしたが、例えば把手側の斜面は曲線等でもよい。

【0042】

【発明の効果】以上詳述したように、本発明のシートフィルムバックによれば、バック本体の前面壁に形成された開口を通過してバックホルダの露光位置に移動したシートフィルムユニットの縁端を引蓋の戻し操作に伴って押圧する突起を引蓋の表面に形成したので、シートフィルムユニットの長手方向の位置決めを行うことができ、シートフィルムユニットの画枠ずれを防止できる。また、前記突起は、引蓋の表面からの高さをシートフィルムユニットの厚みの1/2以上としたので、シートフィルムユニットの縁端が突起に乗り上げるというトラブルを防止でき、確実にシートフィルムユニットの長手方向の位置決めを行うことができる。また、前記突起は、引蓋の表面からの高さを0.9~1.1mmとしたので、突起がバックホルダ側の遮光テンプを通過する際に摩擦抵抗が大きくなり過ぎて動作性が低下することなく、シートフィルムユニットの長手方向の位置決めを確実に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る引蓋の表面を示す平面図である。

【図2】シートフィルムバックとバックホルダの外観図である。

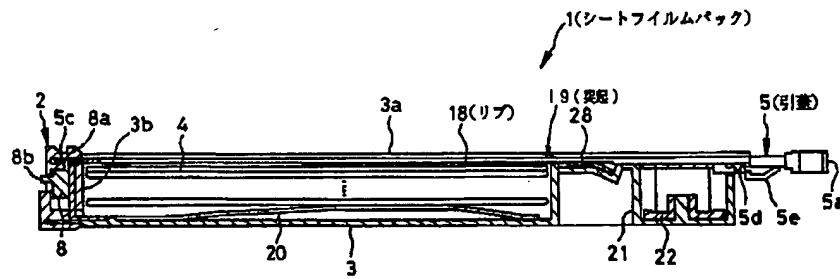
【図3】シートフィルムユニットの斜視図である。



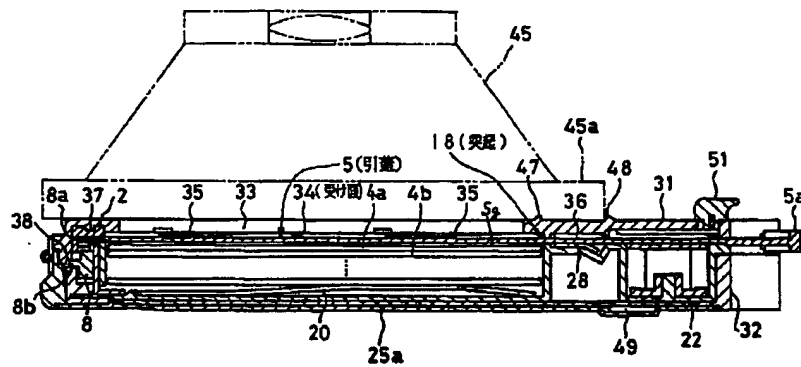




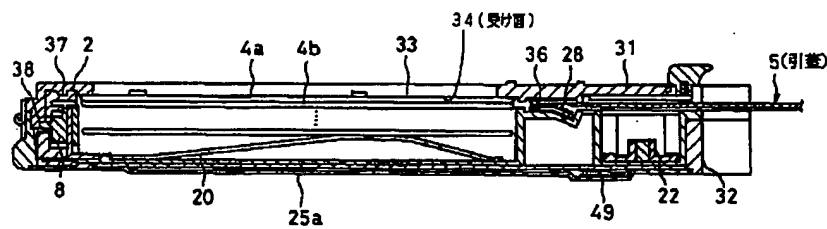
【図6】



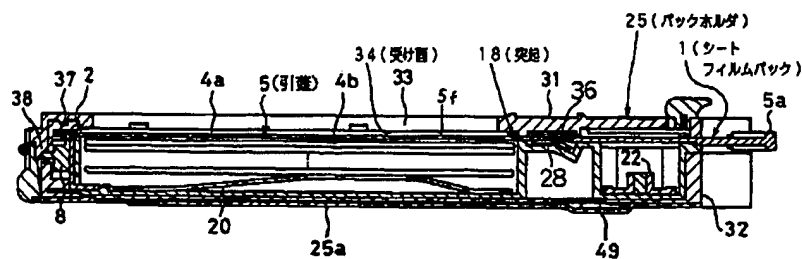
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

